

女性文学2

—円地文子—

(1・2年 後期 2単位)

高瀬 真理子

授業のテーマ・目標

明治期の著名な国語学者、言語学者である上田万年の娘として良家に生まれ育ち、双方の祖母の影響を受け、プロレタリア文学の洗礼を受けた。夫との関係に悩み、女性特有の病などに苦しみながら、女の情念の叫びを芸術化した円地文子。年譜的背景をベースに、彼女の作品世界を分析しながら丹念に読み解く。

授業の内容

1. 円地文子の生い立ちと生涯
2. 「ひもじい月日」…吝嗇な夫と連れ添った世界は？
3. 「妖」…娘が旅立った後に残された夫婦は？
4. 「二世の縁 拾遺」…性の埋もれ火
5. 「男のほね」…継承される怨念の行方
6. 「猫の草子」…老いに向かい合う芸術家の孤独
7. 「女面」…本当にコワイ女とは？

テキスト・教材

円地文子『妖・花食い姥』（講談社文芸文庫）1,008円
その他プリント配付

成績評価の方法・基準

論述式の試験を実施し、その結果を評価する。（自筆ノート等持込み可）

配分基準：定期試験80%、平常点20%

参考書・準備学習

講義中に紹介する。

注意事項

作品を読むことなしに、文学の理解はあり得ませんし、講義内容を理解することも困難になります。講義の進捗と前後しながらでも、とにかく各自で読むことが肝要です。

また、試験の際に威力を発揮するのは、ノートです。日頃から講義内容をノートにとる努力を惜しまないようにしてください。

なお、講義で採り上げる作品ならびにその順序は、進捗や日程により、変更することがあります。（変更がある際には、必ず予告します。）

携帯の電源OFF。私語厳禁。飲食物持込み不可。